

地歴公民(日本史) 慶應義塾大学 経済学部 1/1

<全体分析>

試験時間 80分

解答形式

選択式 20 問 (記号選択 9 問、年代整序 11 問) 記述 8 問 論述 10 問 計 38 問

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数 3 題は昨年度と同じ。設問数は 46 問から 38 問に減少した。記号選択が 5 問、年代整序が 7 問減少し、記述が 4 問増加した。論述は設問数も全体の字数 (全 20 行) も同じであった。設問数が減少したとは言え、試験時間 80 分に余裕があるとは言えない。

出題の特徴や昨年度との変更点

論述問題が他学部比べて突出して多い。また、史料・グラフ・地図などの資料を用いた出題が多くを占める。

その他ピックアップ

大問 I は、経済学部の世界史入試問題と同様の問題文で、設問部分でも一部同様の史料が使用された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	年代整序 論述	西洋と日本の美術から みる近世～現代 《史料・グラフ》	問 1 の城郭に関する論述は難。問 2 ①は、発問が曖昧なため迷ったかもしれない。問 2 ③の第二次世界大戦期における日仏関係史料の時期を判断させる b・c も難。問 2 ②は、図の 2 の時期の米価上昇から時期を特定し、確実に正解したい。	難
II	記号選択 年代整序 記述 論述	江戸時代の学問 《史料・地図》	問 3 ②の朝鮮から日本宛の国書に記された将軍の呼称の変更に関する論述問題は、2 度目の変更点が説明できたか否かで得点差がついたと思われる。問 6 はやや難。問 7 ②のイ・エは人名を入れるべきか、藩名を入れるべきかで迷ったと思われ、やや難。	標準
III	記号選択 年代整序 記述 論述	松永安左エ門とその 時代 《史料》	問 9 の論述は、まとめ方がやや難しい。問 12 a・b は、ともに難。a の史料は重要産業統制法 (1931 年)、b の史料は臨時資金調整法 (1937 年) だが、いずれも史料の特定が難しい。問 14 の中曽根康弘内閣の公共企業体の民営化に関する論述は、同様の問題が出題されたばかりで、過去問に取り組んでいた受験生は取り組みやすかったであろう。	標準

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

一部難問は含まれるものの、このような設問は合否に影響しないであろう。大半は標準的な知識もしくはその応用で正解が導き出せる問題なので、教科書の内容を史料・地図なども含めて確実にマスターしておきたい。また、未見史料やグラフ・統計などの資料対策として、過去問などの演習を通じて思考力・判断力を身につけていってほしい。さらに、歴史の因果関係を踏まえた学習は、年代整序問題はもちろんのこと、グラフの時期特定問題や論述問題にも役立つだろう。平易な論述問題は確実に得点できるように、普段から訓練しておきたい。